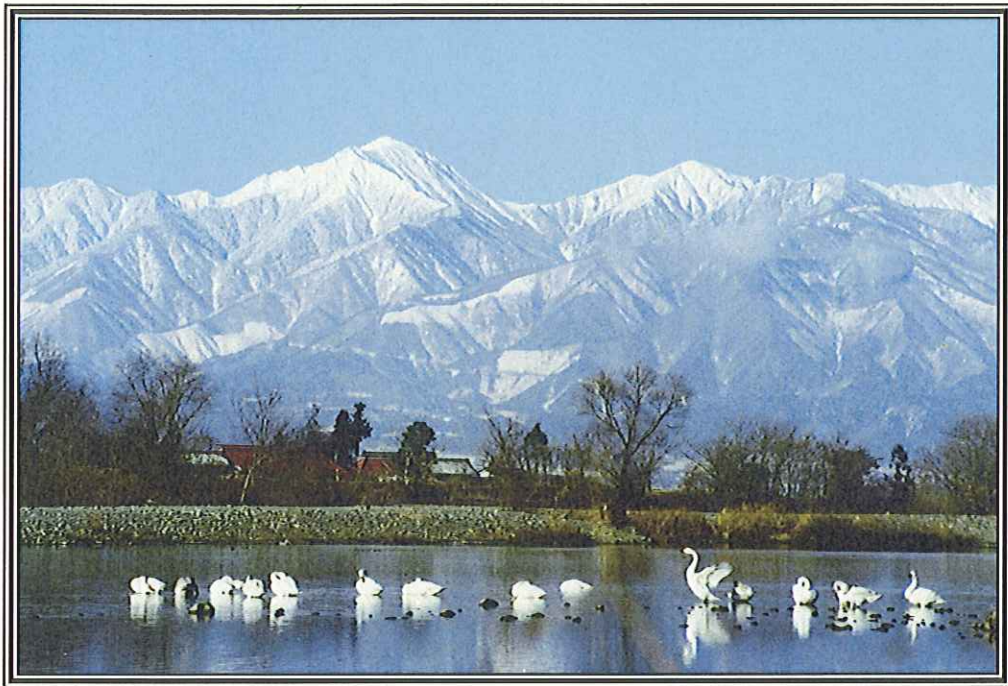


「水が織りなす安曇野今昔物語」講座

～ 穂高編 第3回 ～

「祭りとお八面大王伝説」



日時：平成23年11月11日(金) 午後7時から

場所：穂高会館 講義室②

講師プロフィール

中島 博昭 氏 (なかじま ひろあき)

1934年 安曇野市穂高生まれ。

現在、地域史研究家、「安曇野文芸」編集長、安曇野塾運営委員。

長年、松本深志高校など県内の高校社会科教師を務めるかたわら、郷土の優れた人物や文化財の掘りおこしと顕彰、地域づくりに尽力。

前長野県短期大学講師。

著書 『鋤鋤の民権—松沢求策の生涯』

『がいどぶっく 安曇野の里 穂高ものがたり』

『安曇野に八面大王は駆ける』

『探訪・安曇野—その旅と歴史ロマン』

『唄え、安曇節』

『常念山麓』

『犀川川筋ものがたり』

編著 『あゝ祖国よ恋人よ—きけわたつみのこえ上原良司』

ほか。

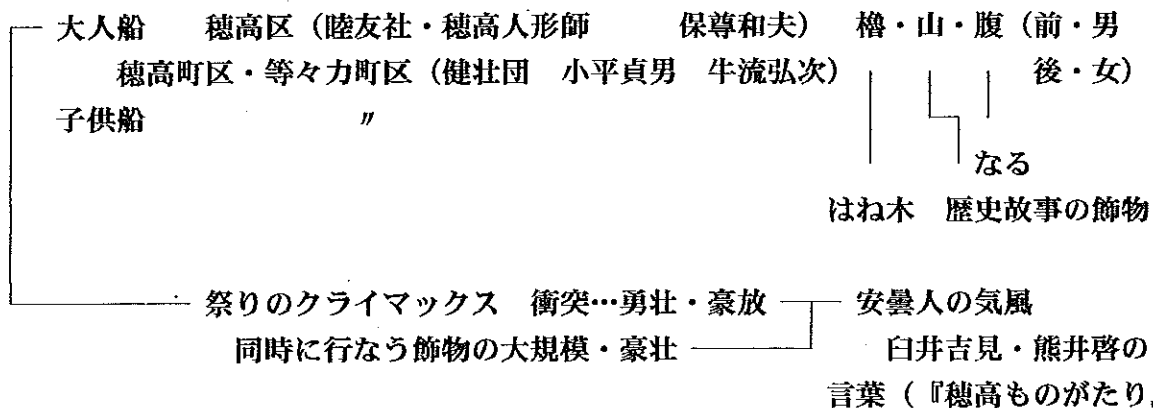
旧・穂高町の個性と魅力

第3回 祭りとお面大王伝説

— この風土とみづから造った集落で続けてきた文化

★祭り

- お船まつり 穂高神社系 (安曇氏 — 海人族) 神社の祭り 安曇野市内77社中
9月26・27日例祭 22社



- ◆お囃子 鐘 太鼓 笛

- ◆参道の灯籠 手作りのややエロチックな絵入り

●道祖神まつり

特色

- ①集落主体 集落形成と建立時期連動 江戸後期が多い 文化・文政
- ②機能 塞 (外部からの外敵の侵入防止) から始まり五穀豊穰・無病息災
子孫繁栄 縁結び・安産など

③分布と種類

- a. 双体像が多い。祝言像 (握手 酒器) 祝言像 (握手 酒器)

穂高町	84	57	23	三郷村	49	32	16
豊科町	41	27	11	堀金村	34	19	15

文字碑 丸石 (山梨県) (昭和58年現在)
- b. 握手像が最多 — なぜ? 制作・信仰にかける人々の想いは何か
 双体像でも合掌像もあるが皆無。接吻・交合像もあり。
 参考 降旗勝次編『道祖神』 (鹿島出版会)
- c. 御影石が材料 d. 屋形 e. 彩色像
 参考 石田益男『道祖神をたづねて』 (企画出版 安曇野)

④道祖神まつり・三九郎火まつり 子供が行なう。古くは大人も。

正月七日 注連縄 (しめ) や松飾り焼く。参考 相馬黒光『穂高高原』p 88
集落の子供たちが道祖神脇に小屋をつくり共同生活。性を卑猥に歌う。

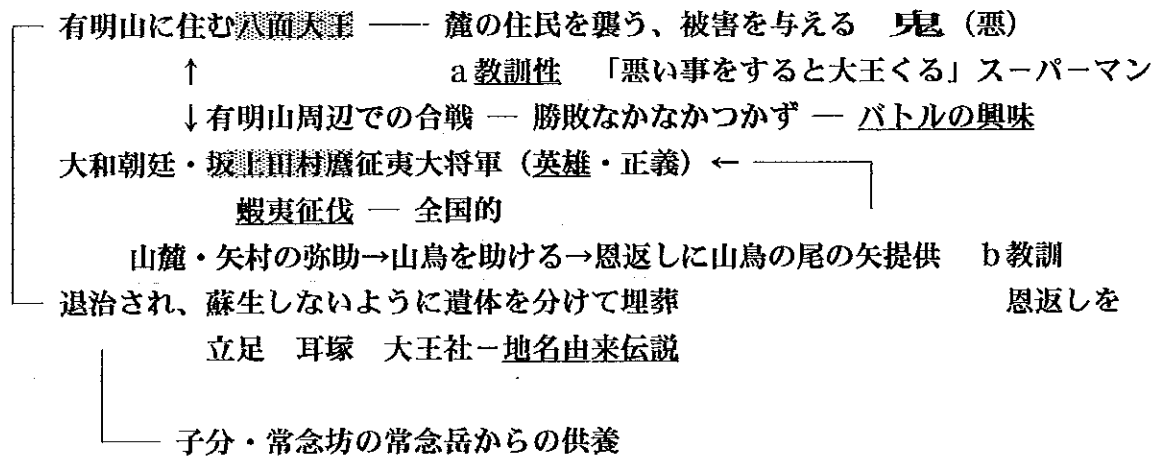
御柱まつり

★八面大王伝説

安曇野で最も長い間住民の心をとらえ語りつづけられてきた伝説 — なぜか？

①口承民話 親から子へ、子から孫へと代々語りつづけられてきた。

②題材と物語の地域性の深さと全国的広がり



③安曇野の創世歴史のキャラクターとしても取り上げられてくる。「安曇開基」

「仁科記」「信府統記」など 八面大王とはだれ？の興味

現在の見直された動き

八面大王は鬼でなく郷土の正義の支配者←昭和58年『安曇野に八面大王は眠れる』
(わが国の歴史の見直しの動きが背景)

①安曇野の新たなシンボリックキャラクターとして登場

「八面大王」の銘柄の酒 菓子 (丸山製菓)

「八面大王足湯」←「 〃 噴水」 (町が検討委員会設置、正悪二様の八面)

人間の多様性 悪として見てきた実態も

尊重 — 丸山製菓の版画文

文芸 正しい立場のもの 瓜生喬「安曇野の鬼・八面大王」

ピアノ組曲「八面大王」 春日三千郎「八面大王ものがたり」

マンガ — 降旗正『安曇野ものがたり』 (きょうど出版)

②もっと多彩な展開があってもよくないか — 課題 参考 中島『探訪 安曇野』

メモ

A series of horizontal dotted lines for writing, spaced evenly down the page.

